地域農業の
Eひと

何よりも地域のために農業を目指したい

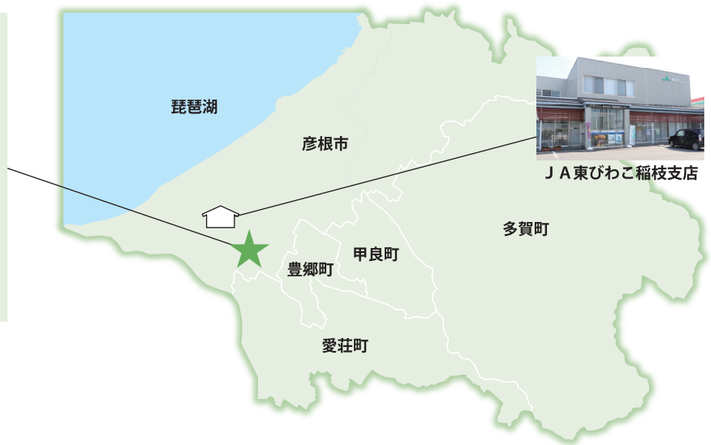
ひこねしのらだちょう
彦根市野良田町

たき　ひとし
瀧 仁司さん（62）

主な生産品目

品目名	規模
水稲	10ha
クワイ	5a

（令和6年度）



昔と今で大きく変わった価値観

農家の3代目として、幼少期から農業に携わってきました。苦労して農業に勤しむ父の姿を見て、中学卒業後は県外へ進学し、社会人になってUターンするまでは農業の世界から遠ざかっていました。父の手助けをしたいと思う半面、当時は休みなく働き苦労する農業のイメージが強く、まさか自分が農業を営むとは考えもつきませんでした。しかし事業承継後、自分が生まれ育ったこの地域で農業を営む責任を果たしたいという気持ちが大きくなり、先人が苦労して築いてきた地域農業を次の世代へバトンパスすることこそが自分の使命だと強く感じています。農業は、大きなポテンシャルを秘めた業種です。自分の創意工夫でどのようにも持っていける面白さに「気付く」ことが、本気で農業に取り組むための秘訣だと思います。

▲今となっては大好きな農業。苦労もしますが前向きに考えると大変面白いです。

地域一丸でサステナブルな農業を

地域ならではの特色をひとつ挙げると、稲枝地域の農家で構成する「稲枝酒粕米部会」では、米を原料とする日本酒から生まれた酒粕を肥料にし、またその肥料を使って生産した米で酒を造る「循環型農業」に取り組んでいます。これは、化学肥料や農薬の使用を抑えつつ、使用する資源を循環させて自然環境への負荷軽減を目指すものです。地域に多くの恵みをもたらす農業が将来も末永く続くよう、部会員をはじめ各々の農家が様々な挑戦を続けています。例えば、当部会で生産する「秋の詩」を令和5年産から市内の学校給食に供給しています。農家だけがこの問題を抱えるのではなく、地域で多くの関係者が農業を取り巻く諸課題を共有し、一体となってサステナブル（持続可能）な農業を目指していくことが大切だと考えています。

▲酒粕を原料とした肥料。令和５年度は「稲枝酒粕米部会」で部会長として尽力しました。

農業の魅力は無限大

後継者の確保といった問題は、他人事ではありません。私にも息子がいますが、決して無理強いだけはしないでおこうと決めています。農業の面白さに「気付く」機会があれば、どんな人でも農業に挑戦できる社会が良いと思っています。私の場合、土地や設備の問題で、小麦・大豆など水稲の裏作はやっていません。その分、農閑期には趣味の旅行・温泉巡りを満喫しています。自分で働くスタイルを決められるのも農業の大きな魅力です。全国の絶景を見ては写真を撮ってコレクションするのが好きなのですが、ふと身近な田植え直後の景色が美しかったのでＪＡのフォトコンテストに送ってみたところ、優秀賞をいただくことができてうれしかったです。この地域の美しい農風景は、他所にも負けていないと思います。おすすめは、ウォーキングがてらに登る荒神山の展望台から見える、びわ湖と農地の景色です。農業を通して四季の移ろいを感じることができ、とても素晴らしいですよ。

▲優秀賞を受賞した作品「みずかがみの里」。絶景は身近にありました。